

アラブ産油国の明治維新

日揮株式会社

【代表取締役会長兼CEO】

重久 吉弘

Yoshihiro Shigehisa



本年7月13日、サウジアラビアのアルコバールで当社の100%子会社である現地企業の開所式を行いました。この企業は、JGC Gulf International Ltd.と称し、サウジを中心とする湾岸地域でのプラント建設を自前で遂行できるよう、当社の日本人社員20数名を長期派遣し、当初150名、2～3年で300名体制とすべく設立したものです。……なぜこの会社を立ち上げたのか？ひとつには当社の主要市場における「現地顧客密着型ビジネス」の拠点として。もうひとつは人口増加に伴う若年層の雇用機会創出と積極的な外資導入による産業育成・多様化というサウジの国策に適うものとして。そして2005年3月出張時にサウジアラムコ社のジユマ社長から、日本の文化と才能をもつ会社をつくってほしい、とお願いされた約束をスピーディに果たすべく。

さて、昨今のオイル・ガス分野の国際会議等の場で痛感することがひとつあります。

今やNOC（産油国のNational Oil Company）の前でIOC（International Oil Company、欧米のオイルメジャー）の存在が実に小さくみえるのです。産油国のナショナリゼーションが進み、世界の石油埋蔵量の7～8割はNOCに存するという現実や油価高騰の恩恵を受けて産油国の財政が飛躍的に改善し、その余剰資金が世界経済を大きく

動かすようになったことから、彼らの発言力は増し、その姿が大きく映るということなのでしょう。

去る5月末、当社本社ビルのすぐ隣で第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）が開催され、その折アルジェリアのウヤヒヤ首相と面談する機会を得ましたが、そのとき彼はこう言っていました。「わが国は国家収入の96%を炭化水素分野に依存している。かつて石油はアルジェリアにとって躰きのものであった。石油に依存するがゆえにだれも働かなかったからである。しかし今日では、石油を自らの強みにして自国経済を石油から脱却させようとしている。市場開放、産業投資で新たな国づくりをめざす。……歴史的にみると現在のアルジェリアは日本の明治維新に当たる」と。この秋当社は、アルジェリアにもサウジと同様の現地子会社を設立します。

アラブ産油国は今、持続的発展を見据えて経済構造の変革に大きくかじを切りつつあります。一方で彼らはエネルギー資源と豊富なおカネを大事に、有効に使うとしています。そこには日本からの多様な投資機会の拡大と、それに伴う投融資金ニーズも増大してくると思われます。あとはそれにどう応えるかです。日本の明治維新は“和魂洋才”で発展しました。彼らの明治維新は“アラブ魂和才”で発展させたいものです。